

江 国 寺 物 語

—— 振り袖地藏の由来 ——

岩 田 豊 子

(会員・佐伯市柏江)

昔天領であった柏江村向柏江の渡り上りに、龍勝院^{注1}という山伏の家がありました。今では柏江橋の川下で、川の中になってしまいましたが、部落の一番川下になりま

す。
堅田音頭の口説「お民半蔵音頭」に出てくるお民の生家で、その隣りに林明賀屋という家がありました。

夫婦暮しで仲むつまじく、とって七つの愛らしい娘が一人ありました。しかし、世の中とは思いうようにいかないもので、ふとしたことから、この可愛い娘が、病氣にかかって亡くなってしまいました。いとしい娘を失った夫婦は、毎日毎日、昼も夜も泣き通して、何もできない暮しが続きました。

娘のなきがらは、村の江国寺というお寺の墓地に葬られたのですが、それから間もなく、村の人達の間に恐る

しいうわさがたち始めました。それはお寺の奥から、夜になると、白い人形のぼりのようなものが、火の玉に乗って、宙にふわりふわりと、夜明けまで飛び廻るという話でした。村人はこの恐ろしいうわさ話に震えあがって夜の用達しも外に出るのが恐ろしく、肥桶を家の中に持ちこむという始末でした。

柏江の江国寺は、佐伯の養賢寺住職第三世の槐州和尚の開基で、堂宇もなかなか立派なうえ、代々の住職も偉い方達によって引継がれてきました。

それは、今から四代前の玉海和尚というたいそう知識の高いお方の時の出来事でした。

玉海和尚さんは、この村のうわさを聞き、何とかして村の人達を救ってあげたいと思い、ある日、うわさの主の夫婦をお寺に呼んで、話を聞いてみました。

そして、二人が亡くなった子供のことがあきらめきれず、日夜泣き暮していることがわかりました。

話を聞いて和尚さんは、

「そんなに子供に会いたいのなら、今晚改めてお寺の本堂に来なさい。その時會わせてあげましょう」と言いました。

夫婦は喜んで、夜になるのを待ちかねて、揃ってお寺にお参りしました。和尚さんは袈裟をつけて、本堂に端座して待っていてくれました。二人が揃うと、何も言わずに長いお経をあげてくれました。夫婦はその莊嚴さの中に吸い込まれ、次第に心の落ち着きを取り戻し、やがて静かな冥想の中に置かれました。

すると、和尚さんが厳かに言いました。

「わしの左の衣の袖をのぞいて見なさい。娘さんに會わせてあげよう」

夫婦は期待に胸をふくらませて、袖をのぞいて見てびっくり驚天しました。そこには、口は耳まで裂け、紅の舌を巻きたてて、今にも飛びかかってきそうな、思いもかけぬ娘の姿に、腰も抜かさんばかりになりました。

和尚さんは静かな口調で

「あなたがたお二人が、あまりにも泣き悲しむので、娘さんが成仏できず、途中の道に迷って苦しんでいる姿を今、あなたがたお二人が見たのです。供養も忘れる程泣きじゃくる姿が、あの世に行つた娘さんにとっては、行くべき所にも行くことができず、むしろ、二人をかたきと思つている形相が見えたのです。いくら泣いても亡くなった娘さんは帰つては来ないのだから、お経でもあげて心を静めなさい。二人の諦めがつけば、娘さんもひかれる心がとけて成仏できるようになります。わしもお経で読み消して、成仏のお手伝いをしてあげましょう。」

「あっ。それから歌を読んであげるから、それを書いてお地蔵さまを建てるとうい」

和尚さんはそう言つて、次のような歌を読みました。

父母の眠りをさます法の道

教えてかえる子は知識かな

この名僧の知識によつて、娘は成仏したと今に伝えられています。

江国寺裏の墓地を少し登つた所に、森九郎左衛門といふ、高政公の弟で、此の地方を治めていたお方のお墓があります。そこを少し左に登つた道ばたに、この歌を書

き印した地磐石に首がのせられています、その左に振り袖姿の地蔵尊が首なしで立っています。これが振り袖地蔵尊と言いつがれて、今に残っています。明治元年の廃仏棄釈のときの犠牲になったお地蔵さまの今の姿です。

注1 龍勝院は、染矢寛氏の「口伝による伝承の神秘」には、「お為半蔵音頭考」の中で、流正院という山伏の二番娘にお為と云うて……と違った文字をつかっていますが、柏江では文中の字を使います。

昭和六一年 行事・事業報告

- 一・五 事務局長を考ふる有志の会 十二名
- 一・一三 新事務局初会議 事務局長塩月佐一(新) 編集長後藤知久(新)、会計山本 保(留)
- 二・二 年頭評議員会(役員改選・事業計画他)
- 二二 研修部会(研修計画作成)
- 六 新しいむらまちづくり運動研究会(大分)
- 三・二八 『佐伯史談』第一四一号配本
- 四・一二 村井強氏講演会(リーフデ号の豊後漂着はどこか 於図書館)

高木嘉吉前会長・清田義雄前副会長兼事務局長に史談会より感謝状及記念品贈呈

- 四・一五 宇目町探訪
- 五・二〇 安心院・院内町探訪中止(参加人員少数)
- 六・七五 『佐伯史談』第一四二号配本
- 一一 寒田公民館教室佐伯視察を案内(史談会より三名出席)
- 二五 第一回毛利藩々政資料講習会(講師狩生先生)
- 三〇 佐伯地区文化財調査委員会研修会に史談会より三名出席
- 八・二七 第二回藩政資料文書講習会
- 九・一九 第三回 〃
- 二五 豊後南画展並に近郊の文化財見学
- 十・一八 第四回藩政資料文書講習会(午前) 〃 大隅半島研修旅行事前研究会(午後)
- 一九 羽柴弘先生墓前祭
- 二二、二四 大隅半島旅行
- 二・一五 『佐伯史談』第一四三号配本
- 二二 第五回藩政資料文書講習会
- 二五 佐伯氏位碑まつり 於竜護寺
- 三・六 年末集会